

第7期介護保険事業計画策定に向けて

健康寿命延伸に向けた取り組みを始め、実態調査の結果（中間結果）や国の制度改正の方向性等を踏まえ、取り組むべき課題を議論。

・企画・調査部会での主なご意見

○ 自立支援・介護予防に向けた取り組みの推進

- ・地域住民が自分で自分の生活を、健康を考えていくようにしていくことが重要。
- ・地域の健康特性の捉え方をどのように考えるべきか（個体差の集合によるものか、地域での社会資源の状況の違いによるものか。中学校圏域で捉えるべきか。）。
- ・総合事業は、専門職も含めて、医療と介護の両面から取り組んでいてもらいたい。

○ 認知症施策の推進

- ・認知症になって困っている状態になってからフォローするのではなく、その手前の段階で情報が行き渡るようにしておくこと。
- ・認知症のステージごとに、どのようなサービスが受けられるのかという絵があったほうが分かりやすいのでは。
- ・これからは担っていく子供たちにも認知症に関する（学校）教育を。
- ・認知症の方のためのハザードマップのようなものを作成してはどうか。

○ 在宅生活の継続に向けた支援

- ・来年度、医療介護サポートセンターが全ての区で開設される。機能を充実していくことが重要。
- ・病院、施設の間で情報の共有を進めていく必要がある。
- ・定期巡回サービスと看護小規模多機能をどのように整備していくか
- ・あんしんすこやかセンターの業務量が増大する中、行政の支援が必要。
- ・NPO法人などをもっと活用してはどうか。

○ 施設のあり方

- ・サービス付き高齢者向け住宅を老人ホームと思っている方も多い。まちづくりと一緒にあって取り組んでいくこと、イラストなどで分かりやすく可視化していくことが必要である。

○ 人材の確保

- ・介護人材の確保に関し、学校の先生が生徒に、「介護の世界は大変だよ」と言ってしまうと聞いている。学校を含めた対策を。
- ・人材の確保は、多職種の人材をすべて確保していかないといけない。

○ 給付と負担のあり方

- ・（介護報酬は、国の問題ではあるが、）介護報酬の減額改定により倒産する事業者もある。介護報酬は一定必要な経費という理解のもと、必要額を確保いただきたい。

○ 地域共生社会に向けて

- ・ 地域共生社会の実現に向け、まちづくりとリンクしていくこと、包括的なすり合わせが必要。
- ・ 高齢者だけでなく、地域の人すべてを対象とする方向で、地域づくりの絵を描いていくこと、次期計画では、そのための頭出しをしておくことが必要。